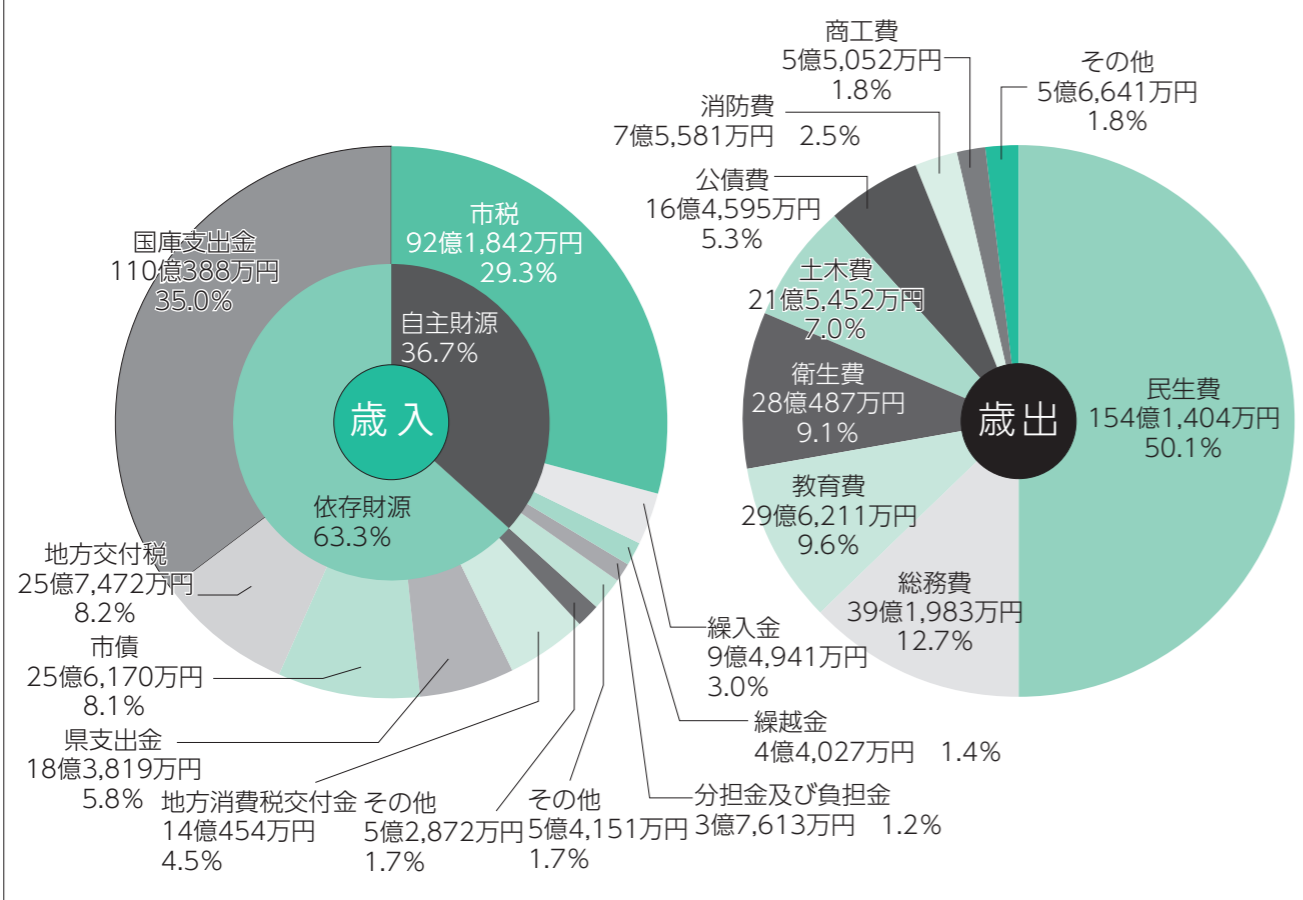


新型コロナウイルス対応で

歳出増額

2年度 羽島市一般会計決算

歳入 314億3,748万円
歳出 307億7,407万円



会計別歳入歳出決算

会計別	歳入 (収入済額)	歳出 (支出済額)
一般会計	314億 3,748万円	307億 7,407万円
特別会計		
国民健康保険	71億 4,387万円	63億 9,769万円
介護保険	53億 9,477万円	52億 832万円
羽島市・羽島郡二町介護認定審査会事業	2,232万円	2,232万円
インター北土地区画整理事業	7,880万円	3,389万円
駅北本郷土地区画整理事業	6,336万円	3,410万円
後期高齢者医療	8億 4,993万円	8億 3,113万円
病院事業	収益的収支 57億 6,811万円	57億 1,544万円
	資本的収支 2億 50万円	4億 3,731万円
水道事業	収益的収支 8億 7,986万円	6億 3,304万円
	資本的収支 2億 4,835万円	6億 2,578万円
下水道事業	収益的収支 18億 4,047万円	14億 3,735万円
	資本的収支 11億 7,157万円	17億 6,467万円

令和2年度の一般会計・特別会計・企業会計の決算が市議会にて認定されました。決算状況のあらましをお知らせします。

問い合わせ先
財務課 (内線 2382)

一般会計

歳入
歳入全体の決算額は314億3748万円、前年度と比べて71億3015万円、約29・3%増加しました。歳入には、地方公共団体が自主的に収入することができ、市税や手数料などの自主財源と、国や県から交付される依存財源があります。自主財源が多いほど、行政活動の自主性と安定性を確保することができます。

2年度の歳入決算額に占める自主財源の割合は、前年度より13・9ポイント低い36・7%となりました。これは、依存財源である国庫支出金の増加によるものです。

歳出

歳出の決算額は307億7407万円、前年度と比べて69億701万円、28・9%の増加となりました。内訳は、保健医療や福祉等の民生費が50・1%と最も比率が高く、約154億円を支出しています。次いで総務費が12・7%、教育費が9・6%を占めています。

民生費は前年度と比べて72億964万円増加しています。主な要因は、特別定額給付金給付事業によるものです。借金の返済額である公債費は、前年度と比べて1億3944万円増加しています。

市民1人当たりの負担

市民1人当たりの市税の負担は13万7095円でした。前年度と比べて2836円の負担減となっています。

市債残高の状況

2年度一般会計決算での市債残高(借金の残高)は、約197億円で、前年度と比べて約13億円増加しました。主な要因は、新庁舎の建設によるものです。

特別会計

特別会計のうち、国民健康保険は、被保険者数の減少などにより、歳出が前年度に比べて3億8118万円(5・6%)減少しました。一方、介護保険は、介護給付費の増加などから、前年度より歳出が1億6331万円(3・2%)増加しました。

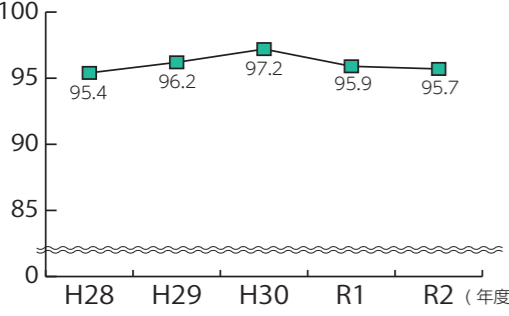
企業会計

独立採算が原則の企業会計には病院事業、水道事業、下水道事業があります。病院事業は新型コロナウイルス感染症の拡大による受診控え等により患者数が減少したものの、5185万円の純利益計上となりました。

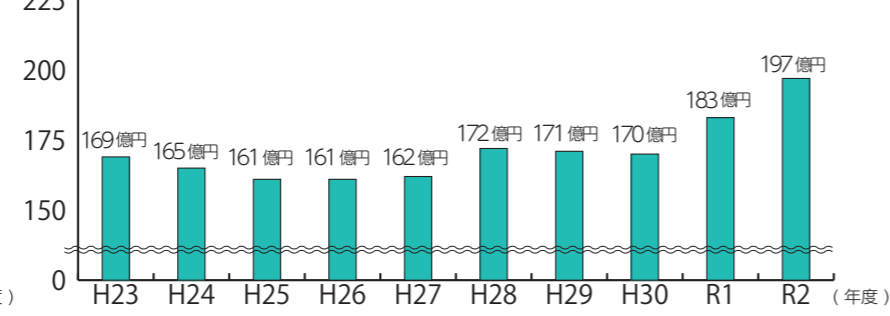
経常収支比率

経常収支比率とは、市税や地方交付税などの経常的な収入に対し、人件費や扶助費などの経常的な支出が占める割合のことです。財政の弾力性を示す指標です。この指標が低いほど財政の弾力性があり、自治体独自の施策に充てる財源が多くなるといえます。

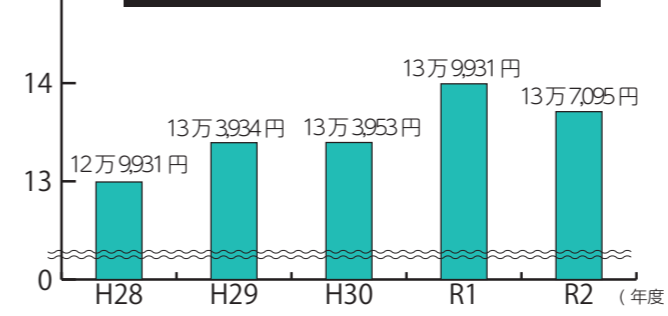
経常収支比率の推移



市債残高の推移(一般会計)



市民1人あたりの市税負担額の推移



一般会計の推移

